

但馬妙見 名草神社



文化財ミニパンフ

国指定 重要文化財 名草神社（本殿・拝殿） 平成 22 年 6 月 29 日指定
国指定 重要文化財 名草神社三重塔 明治 37 年 2 月 18 日指定

名草神社の本殿と拝殿は、平成 22 年 6 月 29 日、「名草神社」として国指定の重要文化財になりました。名草神社は、「妙見山」「妙見さん」「妙見社」と呼ばれ、養父市八鹿町の妙見村に鎮座します。江戸時代から但馬地方の内外から巡礼参詣者が集まる大きな神社として、但馬国を代表する豊作祈願の神社となっています。

妙見山は標高 1,139m で、その八合目にあたる標高 800m の場所に名草神社本殿があります。山岳信仰として栄え、昔は多くの人々が登山道を歩いて登りました。養父市八鹿町日畑から名草神社をへて、香美町村岡区作山に至る登山道が中心となる道路です。その他にも養父市八鹿町石原、養父市関宮地域の尾崎・大谷、豊岡市日高町観音寺など、各地から名草神社に参拝する徒歩の登山道があります。現在は、八鹿から自動車の通る道路があります。

名草神社は、五穀豊穡をつかさどる名草彦大神を主祭神とする神社で、天御中主神など 7 神を祀ります。

本殿の規模は、桁行が 9 間（17.6m）で、梁間が 5 間（9.0m）です。宝暦 4 年（1754）5 月に完成しました。大工棟梁は出石城下の宮本七郎兵衛と八鹿村の田中左右衛門の 2 名です。また建築資金は妙見社の御師が、但馬国内だけではなく因幡、播磨、美作、丹後、丹波など各地をまわって集めました。御師の住宅は妙見村にあり、妙見参りをする参詣者の宿となりました。水原善大夫、大森甚大夫、田中芳之助、野垣神大夫の名前が知られています。

本殿の屋根は、こけら葺で入母屋造です。屋根の正面に千鳥破風とよぶ三角形の小屋根があり、その下に唐破風とよぶ半円形の小屋根があります。このような形式の千鳥破風軒唐破風付の入母屋造の屋根は、栃木県日光東照宮や京都府北野天満宮などの大型社殿にみられます。



向拝 3 間・正面 9 間の大きな名草神社本殿

境内の配置と建造物

建物	規模	屋根	備考
本殿	桁行9間・梁間5間 17.6m・9m	柿葺・入母屋造	正面千鳥破風付
拝殿	桁行5間・梁間2間 11.7m・5.2m	柿葺・入母屋造	懸造・割拝殿
稻荷社	桁行1間・梁間1間 0.91m・0.75m	柿葺・一間社流造	彫刻師は秋塚治助
社務所	桁行13間・梁間7間 26.1m・14.1m	鉄板葺・入母屋造	南面下屋付
三重塔	1辺3間 4.6m 高さ23.9m	柿葺	出雲大社より移転

	指定年	名称	所在地
1	明治 37 年	名草神社三重塔	養父市
2	明治 37 年	温泉寺本堂	豊岡市
3	明治 45 年	中島神社本殿	豊岡市
4	昭和 33 年	酒垂神社本殿	豊岡市
5	昭和 33 年	久久比神社本殿	豊岡市
6	昭和 45 年	日出神社本殿	豊岡市
7	昭和 45 年	赤淵神社本殿	朝来市
8	平成 22 年	名草神社	養父市

但馬地方にある国指定の木造建造物



本殿



拝殿



入口石碑



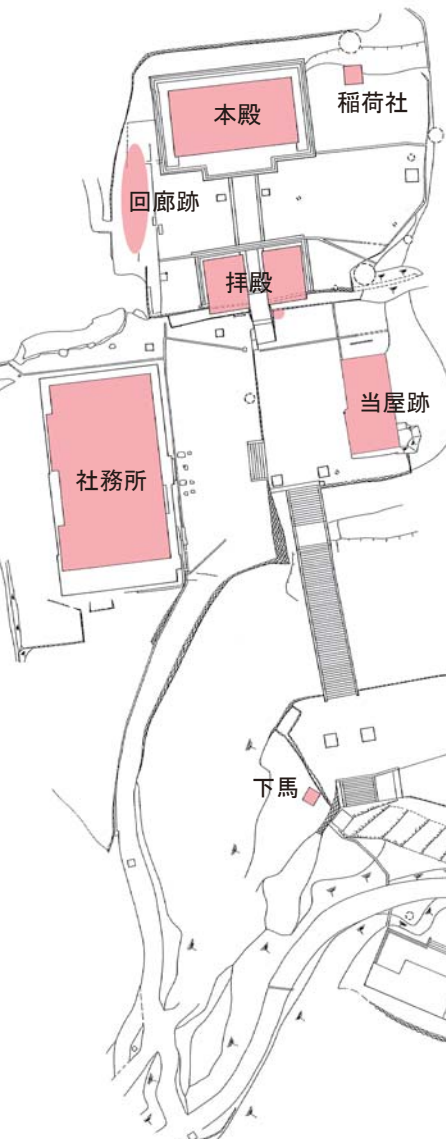
回廊跡



富田碎花先生歌碑



社務所



夫婦杉保存棟



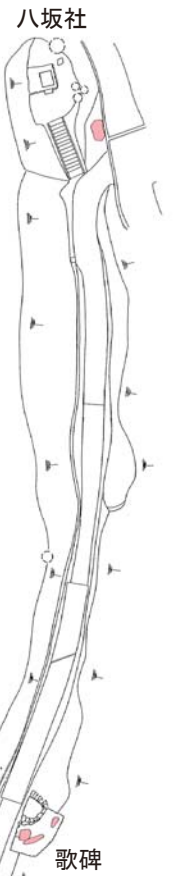
参道石段



夫婦杉



三重塔



名草神社の境内地 所在地：兵庫県養父市八鹿町妙見区

名草神社拝殿

拝殿は、桁行が5間（11.7 m）、梁間が2間（11.7 m）の大きな建造物です。屋根の形式は入母屋造です。屋根を葺いている材料は杉板で、杉板を重ねて屋根を葺く「こけら葺」という方法で作られています。元禄2年（1689）に完成しました。

拝殿中央は3.1 mが土間の通路になっており、本殿に向かう人が門のように通る構造です。この通路の両側には、床を張った板の間があります。これは割拝殿という珍しい形式の拝殿です。

正面からみると石垣の上に建つ拝殿です。石垣から前方に縁が張り出し、石垣の下から高さ3.5 mの柱で縁床を支える、懸造という作り方です。正面からみると石垣の上に立つ威圧的な景観をしています。本殿側からみると細長い優美な建造物です。

通路の天井は格子状に木を組んだ格天井です。天井に近い壁面には雲の絵画が描かれています。



拝殿正面の全景

名草神社本殿彫刻

本殿の向拝にある4本の柱には、4体の獅子の彫刻があります。口を手でおさえた獅子には、失言をして思わず口を押さえたような表情があります。耳をおさえた獅子には、頭を横にひねって苦笑いをしているような表情があります。大きな口を開いた獅子、振り向いて聞き耳を立てる獅子など、表情の豊かな彫刻です。

向拝の両端にある柱の側面には、同じ高さで、長い鼻と長い牙をもつ動物の彫刻があります。口を開いたものと閉じたものがあります。彫刻の題材は、夢をたべるといわれる伝説上の動物である獺で、たてがみと鋭い爪を持つ前足が描かれます。口を開いたものが阿、閉じたものが吽です。「阿吽の呼吸」という言葉で表現される表情です。

向拝中央には、夫婦獅子の彫刻があります。前かがみになって飛びかかる姿と、急に立ち止まって振り返った姿の2体の獅子が、豊かな表情で表現されています。龍の彫刻は、向拝1か所と本殿入口の木鼻2か所にあります。大変精巧で豪華な彫刻が作られています。



本殿獅子



本殿龍

中国神仙彫刻

本殿向拝の正面にみえる蓑股には亀仙人、鶴仙人という中国の神仙思想を伝える彫刻があります。亀仙人は、波の上に蓑状の長い毛が付いた蓑亀に乗った仙人の彫刻ですが、仙人の頭部が折損しています。鶴仙人は、雲の上に羽根を広げて羽ばたく鶴に乗った仙人が、巻物を広げた姿を描いています。

鶴に乗る仙人は、王子喬、費長房、控鶴仙人という中国古代の仙人で、乗鶴仙人とも呼ばれました。また本殿には、琴高仙人の彫刻もあります。鯉にのった琴高は琴の名手で中国の周の時代の人です。龍門を越えて鯉は龍に、琴高は仙人になったといわれます。

拝殿にも中国神仙彫刻がみられます。通路上の蓑股の彫刻には、滝の水流の前にいる老人と牛が描かれています。これは巢父という説話です。中国古代の皇帝である堯が王位を譲ろうと許由に会いました。しかし許由は「耳が腐ってしまう」と言って滝で耳を洗いました。それを見ていた巢父が、「世俗の欲望にまみれた水を牛に飲ませる訳にはいかない」と言って、牛を連れて帰ったという説話です。

これらの彫刻は大変繊細で写実的な造形で、表情や動きが優れています。但馬地方ではこのような彫刻を作ることができる人物はなく、京都・大阪で活躍した名工ではないかと推定しています。なお、但馬地方の彫刻は、文化年間（1804～1818）に丹波の中井正貞によって普及します。



本殿蓑股（鶴仙人）



本殿蓑股（琴高仙人）



拝殿蓑股（巢父）

名草神社三重塔

名草神社三重塔は、明治37年2月18日、国指定文化財となりました。戦前は国宝でした。三重塔の高さは23.9m、三層目の軒先までの高さは16.8mです。屋根は、薄い杉板を重ねて葺いた「こけら葺」です。一層目の中央に扉があり、その両側に緑色の窓があります。一層の規模は、一辺4.6mです。

この三重塔は島根県の出雲大社に、出雲国を治めた大名、あまごつねひさ尼子経久が願主となって大永7年6月15日に竣工したものです(資料によって異説があります)。造営奉行は、多湖悉休です。今も残る出雲大社に関する建造物では、最も古いものです。出雲大社の所在地が杵築という土地であることから、「杵築の塔」と呼ばれていました。

寛文2年(1662)、將軍徳川家光は、松江藩主松平直政に命じて出雲大社の「寛文御造営」を始めました。この時、出雲大社本殿の御用材として、妙見山の妙見杉の巨木を提供しました。この時のお礼として、出雲大社から三重塔が譲られました。

寛文5年(1665)3月、出雲大社で解体された三重塔は、日本海を船で運ばれ、5月には妙見山に到着し、9月には組み立てが完成しました。大工の棟梁は、出雲松江の喜多川太郎兵衛尉と浜田吉之丞、但馬九鹿村の池内与三左衛門尉の3名です。大奉行は但馬八鹿村の西村新右衛門が務めました。

日本海に面した出雲大社には松が豊富にあります。このため三重塔には松やケヤキが多く使われました。杉が多い妙見山では、心柱などを妙見杉で補って建築しました。出雲大社に建てられた三重塔が、名草神社で文化財として受け継がれています。

三重塔を守るサル

名草神社三重塔には、四ひきの猿の彫刻があります。地上から13.5mの高さにある三層目屋根の軒、隅角部にある隅尾垂木すみおだるきに坐っています。

日光東照宮には、「見ざる、言わざる、聞かざる」という有名な三猿の彫刻が、1枚の板に掘られています。しかし名草神社では、四猿の彫刻が1体ごとの木像となっています。それぞれの猿は、目、口、耳に手をあてています。最後の一匹は、左の頬に手があります。

鎌倉時代の書物には「世の人は見ざる、言わざる、聞かざるというけれども、思わざるをたもてば、三の猿はたやすいことだ」と書いてあります。また論語には「動かざる」という言葉もあります。このため4番目の猿は「思わざる」と表現しています。全国的に三猿はありますが、四猿は知られていません。

三重塔の一層目の4隅には、4体の力士(または邪鬼ともいう)の彫刻があります。また、この猿の彫刻に対応するように本殿の向拝の柱には、前足で口を押さえた獅子や耳を押さえた獅子の彫刻があります。



三重塔全景



三重塔 三手先斗拱



見ざる



言わざる



聞かざる



思わざる